

インドの原子力政策

平成27年12月 第46回原子力委員会
外務省南西アジア課 資料第2-1号

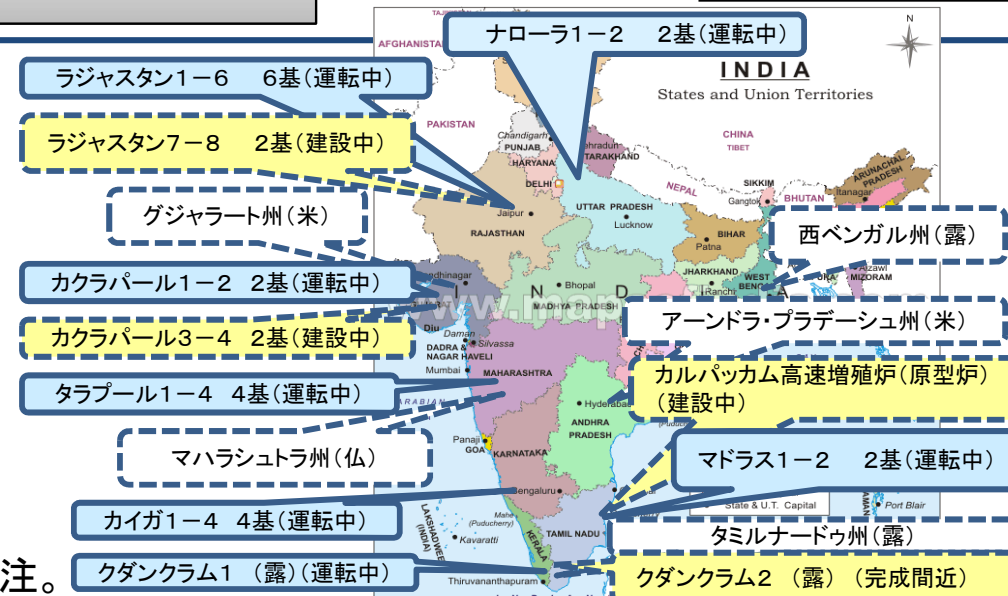
1 原子力発電をめぐるインドの状況

(1) インドの原子力発電の現状

○現在、インドで運転中の原子炉は21基（設備容量5,780MW）。建設中の原子炉は6基（同約4,300MW）。
○インドは、設備容量を、2020年までに約20,000MW、2032年までに現在の11倍弱の約63,000MWに拡大する目標を掲げている。

(2) 各国との原子力協定交渉/協力状況

○米、仏、露、加、韓国、豪（いずれもインドと原子力協定を締結済み）を始め、各国が積極的にインドとの原子力協力を推進。米、仏、露が先行受注。



2 我が国との原子力協力

○2010年6月、インドが今後も「約束と行動」を着実に実施していくことを前提に、我が国は原子力協定交渉の開始を決定。

【参考1】「約束と行動」

2008年9月、原子力供給国グループ(NSG)は、インドの「約束と行動」を前提条件に、インドに対する原子力協力を認めることを我が国を含むコンセンサスで決定。「約束と行動」の主要点及び実施状況は以下のとおり。

- ①核実験モラトリアムの継続（継続中）
- ②原子力施設の軍民分離（実施中）
- ③IAEA追加議定書の署名・遵守（2014年7月発効）
- ④核物質等の効果的な輸出管理（関連国内法制を整備、適切に実施中）

【参考2】日インド首脳会談後の共同声明(2015年12月12日)

両首脳は、日印民生用原子力協力協定に関し、両国政府間で合意に達したことを歓迎し、必要な国内手続に関するものを含む技術的な詳細が完成した後に署名されることを確認した。

* 原子力協定は、移転される原子力関連資機材等の不拡散・平和的利用等を法的に確保するための枠組み。